

人文書・歴史書 ご担当者 様

有志舎の新刊です。2022年12月下旬刊行

戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会

—売買春・恋愛の近現代史—

寺澤 優 著

A5判・ハードカバー・326ページ 本体価格 5,000円

遊廓の娼妓からカフェーの女給へ。戦前日本の性風俗に関する意識とその構造を明らかにする。

【目次】

- 序章 近代日本における私娼・性風俗研究の可能性
- 第1部 大正期の私娼と〈準公娼制度〉への編入
 - 第1章 大正芸妓の売買春と黙認問題
 - 第2章 東京二大銘酒屋街形成と「私娼撲滅」の挫折
 - 補論① 戦前期の全国芸妓屋同盟会の設立と拡大
- 第2部 身売り問題と花柳界遊びにみる〈準公娼制度〉の限界
 - 第3章 身売りと都市売買春産業がかかえる問題
 - 第4章 花柳界がうみだす花柳界弱者と廃娼論
 - 補論② 大正期の「恋愛」論における「個」と人格
- 第3部 「エロ・グロ・ナンセンス」時代の到来
 - 第5章 一九三〇年代のカフェーの性風俗化による「女郎屋ハカイ」
 - 第6章 カフェーにおける性の「大衆」化が示すもの
 - 第7章 ダンスホール閉鎖問題にみる戦時の性風俗・「自由恋愛」のゆくえ
- 終章 売買春・性風俗を変容させるもの

〈著者紹介〉寺澤 優（てらざわ ゆう）：立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員、日本近代史専攻。

～版元から～ 近代日本の性風俗産業は、時代の潮流と共に多様に変化し新しいものが次々と生み出されていきました。特に一九二〇年代以降、大衆化する社会のなかで、公娼制度のもとにあった遊廓などの娼妓から私娼である酌婦やカフェーの女給などへと、その産業の担い手たちは大きく変化していきます。本書は、戦前の風俗や売買春に関する意識を問いつつ、公娼制度や廃娼運動中心の研究を超えてその構造を明らかにしていき、さらに男性側の心理も考察。それらから現代社会における売買春や性風俗をめぐる「常識」や前提を問い直し、再考していきます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	戦前日本の私娼・性風俗産業と大衆社会 —売買春・恋愛の近現代史— 寺澤 優 著 A5判・ハードカバー、326ページ 本体価格 5,000円	日本史（近代） ジェンダー史
	ご担当 様		新刊 ISBN 978-4-908672-61-3 C3021

ご注文は 有志舎 担当：永滝（ナガタキ）まで FAX：03-5929-7352

当社商品の取扱取次はトーハン・JRC・八木書店ですが、日販・楽天BNほか、いずれの取次でも左記取次経由で送品します。なお、JRCからも同じ注文書が重複して送られた場合は、この弊社あての注文書だけをご返信ください。